

活用事例



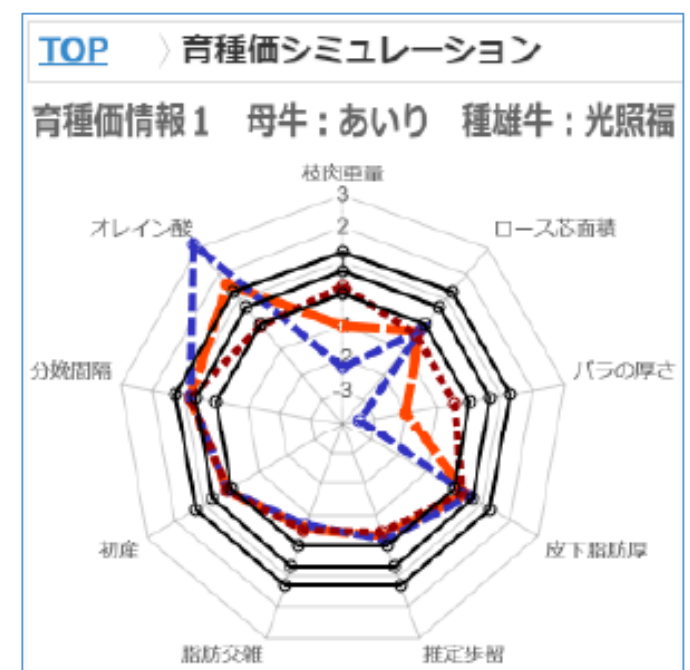
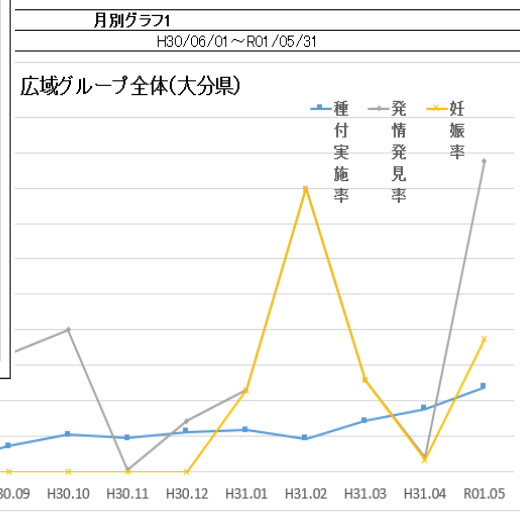
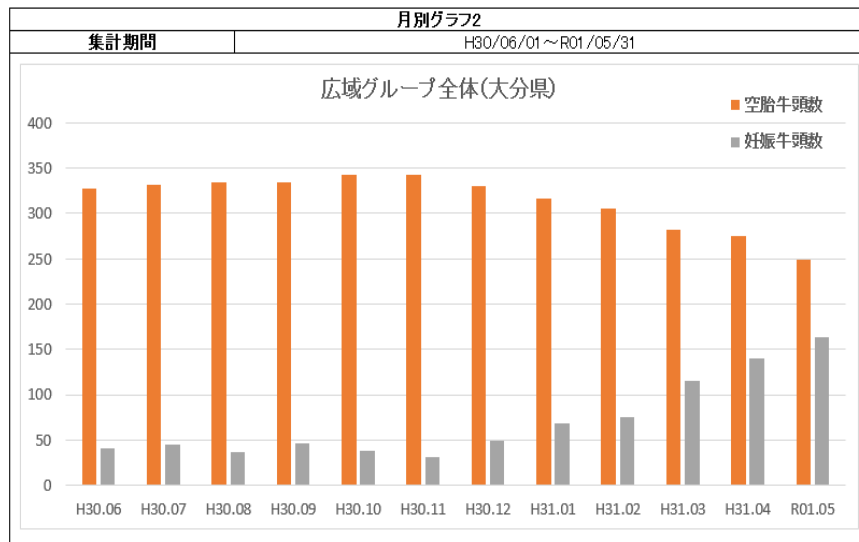
ビッグデータで
もっとラクに、
確実に!

和牛繁殖管理システム

「moopad」による繁殖和牛経営体の経営改善効果(大分モデル)

事例の概要

- 大分県の畜産業界では、高齢化・担い手不足のなか、畜産を魅力ある産業として肉用牛生産を維持・発展させるため、飼養管理技術の省力化や、経営規模の拡大が急務。
- そこで、大分県ではスマート農業推進方針として、平成28年度から県庁農林水産部内にスマート農林水産業プロジェクトチームを立ち上げ、平成29年度に「大分県スマート農林水産業推進方向」を策定。畜産部門では、繁殖牛管理の見える化システムとしてmoopadを採択。
- 大分県のスマート農業推進方針では、IT活用によって繁殖管理の普及・定着による肉用牛経営の省力化や規模拡大、分娩間隔の短縮による収益向上を目指し、①現状の関係機関のアナログ(紙ベース)でのやり取りの改善／②広域機能による自治体全体での管理の実現／③蓄積されたデータで情報分析と見える化／を実現するために、moopadによるクラウドシステムを導入。
- さらに、全国和牛登録協会大分県支部と連携することにより、人工授精時の子牛の期待育種価をシミュレーションする機能や、子牛の早期離乳農家向けに産業技術総合研究所の技術協力のもと、AI(人工知能)を利用した「繁殖処理スコア」による分娩間隔短縮を実現。
- 現在は大分県中津市にて、北部振興局 / 中津市家畜診療所 / JAおおいた / 下郷農協 / 中津下毛和牛改良組合などのご協力のもと、中津市の繁殖農家32戸約600頭に対して全頭登録を行い、運用方法を検討しながら広域機能の機能を試行中。また、同県杵築市山香町にて、人工受精師 / JAおおいた / 北部振興局 / 宇佐家畜保健所などのご協力のもと、山香町和牛改良組合の人工受精師による広域利用を検討中。



情報記載日: 2020年10月9日